

## 寄稿

## IFTA ミラノ大会 2017 に参加して

岐阜信用金庫  
酒井 慶喜

## IFTA シドニー大会以降、出発前まで

初めて見聞きするものばかりで、衝撃的だった2012年シンガポール大会。ジョン・ブルックス賞受賞式で緊張しながらスピーチをした2013年サンフランシスコ大会。世界が広くて狭いと感じた2014年ロンドン大会。記録を残すために写真を撮りまくっていた2015年東京大会。IFTA大会を楽しむとはどういうことかを学んだ2016年シドニー大会。

IFTA2016シドニー大会終了後、このように、5年連続で参加したことやシドニー大会で一緒に過ごして頂いた方々に恵まれすぎたこともあり、個人的にはある種の達成感を感じていました。そのため、2017年のミラノ大会への意気込みは、「何とてでも参加したい」というよりも、むしろ「参加できれば良いなあ」という感覚でいたのが正解

Finally meet my inspirational mentor from the land of rising sun. Cycle expert, Mr. Yoshinobu Sakai, MFTA, NTAA. Thank you very much for your sharing and million gratitude for the gift - cycle hand written chart, absolutely a treasure.

Yoshinobu-san, thank you very much for your guidance.



かもしれません。それほど、自分の中では、やりきった感がありました。

年に5営業日とれる会社のリフレッシュ休暇は、毎年4月に申請をしなければなりません、「条件（と自分の気持ち）が合えば、ミラノに行けるかも」と思い、大会期間の10月に休暇がとれるよう申請を出しました。この場合の条件とは、仕事に穴を空けないように段取りを組むことが出来るかというものです。

確実に行くかどうか分からない状態で、6月に開催されたNTAAの総会に参加した時、事務局の方々を始め、沢山の方々に「酒井さん、今年のIFTA大会はどうされますか？」と聞かれました。

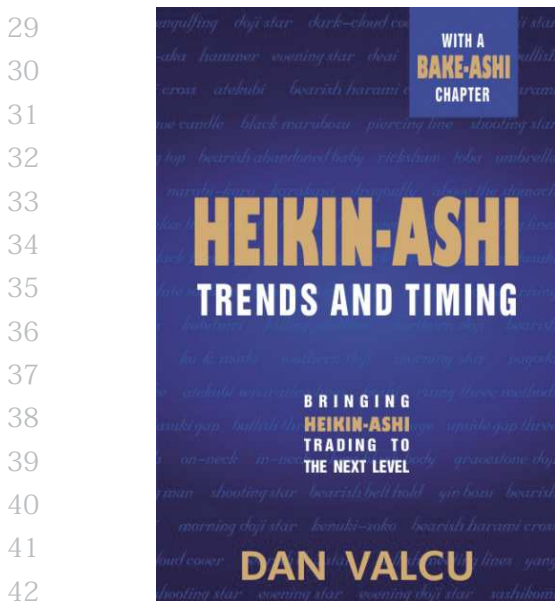
丁度その頃、僕は課長に昇進したこともあり、慣れないポジションで仕事もかなりハードになってしまい、昨年ほど業務に余裕がない状態でした。そのため、質問に対しても、「仕事に目処がいたら、参加します」こう答えるのが精一杯でした。「行くのが難しいかもしれません」が本音だったと記憶しています。社内における自分のポジションはテクニカル分析とは随分かけ離れたものになってしまい、チャートを見る時間を確保することが難しい状態ですので、そんな自分がIFTA大会に行く必要があるのか？ 周りに迷惑かけてしまうのではないかと考えていたことも事実です。

しかし、SNSで知り合った海外のテクニカルアナリスト達と色々なやりとりをしているうちに、ウェブ上だけでなく、実際に会ってみたいという気持ちが強くなっていきました。その思いは、ミラノ大会の最新情報がホームページ上にアップされる都度、更に強まりました。僕が今回のミラノ大会参加を決定的にした理由は、ふたつあります。

1 ひとつは、義理の兄から「参加しないメリットは  
2 何だろうね？」とアドバイスを頂いたこと。もう  
3 ひとつは、ミラノ大会のスピーカーに Dan Valcu  
4 氏の名前を発見したことです。

5 IFTA 大会に参加するメリットは、数えればキ  
6 リがありません。以前、NTAA のホームページや  
7 フェイスブックで紹介させて頂いたように、自分  
8 の知見やネットワークの幅を広げることは参加す  
9 るメリットとして挙げられます。しかし、IFTA 大  
10 会に参加しないメリットは？ と聞かれると、お金  
11 を使わずに済むことや仕事の心配をしなくて良い  
12 こと、そして家族サービスの為にリフレッシュ休  
13 暇を使えることといった具合に、ポジティブとい  
14 うよりもディフェンシブなメリットしか思い浮か  
15 びませんでした。義理の兄に聞かれた「参加しな  
16 いメリット」は、「IFTA 大会に参加するメリット」  
17 に対して自分が胸を張って回答できるものではな  
18 かったのです。淡々と日常生活を過ごすだけでは、  
19 新しい発見は何もないかもしれないし、刺激もな  
20 い事を、義理の兄から遠回しに言われたような気  
21 がしました。

22 参加を決意したもうひとつの理由である Dan  
23 Valcu 氏は、僕がジョン・ブルックス賞を取った  
24 論文のテーマである「バケ足」を自身の著書で  
25 紹介してくれた方です。いつお目にかかるか分か  
26 らない方がスピーカーをするわけなので、ミラノ  
27 に行けば絶対に会えるし、是非、ご本人に会って  
28



29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42

「バケ足」を著書で紹介してくれたお礼が言いた  
いと強く感じたのです。

3 そここまでこだわったのは、テクニカル分析にお  
4 いて、自分が最も重視していることがチャートの  
5 再現性だからです。つまり、同じテクニカル分析  
6 でも、人によって使い方や相場の捉え方や着眼点  
7 は当然違ってくるので、僕は「見方や着眼点」よ  
8 りも「チャートの描き方そのもの」に魅力を感じ  
9 ています。そのため、考案者以外の誰かが、その  
10 分析手法を使えて、考案者と違う視点で相場を捉  
11 えることができることがテクニカル分析の魅力だ  
12 と思っていたので、Dan Valcu 氏が著書“HEIKIN-  
13 ASHI Trends and Timing”でBAKE-ASHIを紹介  
14 してくれていたことを知った時、夢がひとつ実現  
15 した気分になりました。

16 さて、参加するにあたって、毎回自分を悩ませ  
17 るのが、仕事の関係です。外貨資金の総合管理は、  
18 社内でも特殊業務に位置付けられており、従事し  
19 ている職員がそもそも少ないのです。そのため、  
20 一番きついのは仕事の調整と引き継ぎです。自分  
21 の課内に、スタッフは自分を含めて3人しかいな  
22 いことに加え、9月末の仮決算関係の事務処理を  
23 始めとした事務繁忙期にあたるため、相当な勢い  
24 で業務をこなす必要がありました。本当に休める  
25 のか不安になることもありましたが、部下達が僕  
26 のために沢山のサポートをしてくれたおかげで、  
27 なんとか仕事に目処もつき、心置きなくミラノへ  
28 行けることになりました。

29 海外旅行の経験が少ない自分にとっては、イ  
30 タリア・ミラノは当然初めて行く場所です。地図  
31 が読めず、必ず迷子になる僕なので、サンフラン  
32 シスコ大会やロンドン大会や東京大会の時は、移  
33 動する必要がない大会会場ホテルを宿泊ホテルに  
34 していました。しかし、シドニー大会の時に、少  
35 し離れたホテルに宿泊する楽しさを覚えたことか  
36 ら、JTBの窓口で、ミラノ大会の会場ホテルの場  
37 所をGoogleマップで見せて、徒歩圏内のホテル  
38 と往復の航空券を用意して頂きました。「ルック  
39 JTB エア&ホテル エアホミラノ6」という商品で  
40 費用は約20万でした。自力で予約することも考  
41 えましたが、失敗するのが怖かったので、結局、  
42 JTBにしました。

1 持ち物もなるだけ増えないように、服はスーツ  
2 だけを用意して、必要最小限に止めました。中途  
3 半端に擦れた下着や靴下類は、使い捨てのつもり  
4 で持って行きました。ラゲッジがロストしても良  
5 いように、一日分の衣類だけ手荷物に入れ、それ  
6 以外はキャリーバッグへ。自分の記憶がいつも曖  
7 昧になりがちなので、記録用のカメラは手放せま  
8 せん。しかし、大会会場がどんな感じなのか分か  
9 らなかったこと、薄暗い場所でも写真を撮りた  
10 かったことから、ミラーレスのカメラ(プラス、  
11 レンズ2種類)に加え、ちょっとだけ性能の良い  
12 デジカメを出発前日に購入し、持って行きました。  
13 加えて、今回は SNS や前回のシドニー大会で知  
14 り合ったマレーシア協会の方々から「サイクル分  
15 析と一目均衡表について教えてほしい」と要請を  
16 受けていたこともあり、EXCEL で作成した自作の  
17 チャートを印刷して持って行きました。

## 18 IFTA ミラノ大会期間中

19 20  
21 良い意味でも悪い意味でもイタリアだなと思わ  
22 せる出来事が度々ある大会でした。  
23 大会3日通して、スケジュールの時間通りに進  
24 行しなかったのは初めての経験でした。(聞くと  
25 ころによると、プレ・カンファレンスの開催場所  
26 も直前に変更になり、参加者が右往左往してい  
27 たとのことです。)  
28 定刻になっても始まらないし、持ち時間をオー  
29 バーしても平気で話し続ける。気がついたら、会  
30 場の受付で受付嬢を口説いている参加者もいる。  
31 当然、開始何分前のベルも鳴らないし、当初予定  
32 していたスケジュールの時間通りになるように、  
33 コーヒーブレイクや昼食の時間を縮めて時間調  
34 整するということがないため、次のスピーチが何  
35 時始まるのか全く分からない状態でした。今回ス  
36 ピーカーを務めた野澤さんも、スピーチの日程が  
37 前日に決ったという事も、今までではありえない  
38 ことでした。そう考えると、スピーカーの人数が  
39 多かった東京大会は、スケジュール通りに進行し  
40 ていたので、上手に仕切られていたのだと改めて  
41 感心した次第です。  
42 大会初日のウエルカム・パーティーや2日目



17 のガラ・パーティーでもそうでしたが、いつまで  
18 経ってもセレモニーは始まらず、料理も中々出て  
19 ず、結局終わるのが12時前後というのも、音  
20 楽と食事を雰囲気込みで楽しむというのがイタリ  
21 ア流なのでしょう。

22 しかし、メリハリが有り過ぎるのか、情熱があ  
23 るのかは分かりませんが、プレゼン終了後の質問  
24 時間には、必ず多くの方々が挙手しました。時間  
25 の関係で、1人だけ受け付けますというアナウン  
26 スをしても挙手を止めなかったり、プレゼンが終  
27 わったスピーカーを追いかけてアイデアを提案し  
28 たり、個別で質問をしたりという姿勢は、「知り  
29 たい」という情熱が伝わる瞬間でもあり、過去の  
30 大会ではあまり見られない光景でしたので、新鮮  
31 でした。

32 また、イタリア人参加者が多かったようで、イ  
33 タリア語と英語のトランスレーターが準備されて  
34 いました。しかし、プレゼン資料は英語でしたの  
35 で、伝えたい内容は何とか理解することが出来ま  
36 した。

37 残念だったのは会場に奥行きがありすぎる上、  
38 参加者が多いため、椅子のみが配置されている状  
39 態だったことです。補助モニターもないため、結  
40 構前の方に座らないと、プロジェクターが見えな  
41 いし、机・テーブルといったものも無いので、メ  
42 モが取りにくかったので、とにかく前に陣取って、



端な知識しか持っていない自分にとっては非常に  
分かりやすい内容でした。

コーヒープレイク中に海外のアナリストから、『ビットコインの1/3は日本で取引されている話は本当か?』『ビットコインは今後、どうなると思うか?』『サトシ ナカモトは女性の名前か?』といった質問を受けました。日本人と見るや否や、知的好奇心が旺盛な海外勢は自分が納得するまで質問してくるので、満足する回答をするのに四苦八苦しました。

トレーディング・システムの構築やコンセプトについてのプレゼンについては、難しい数学が理解できない自分にとっては、少々ついていけない箇所があり、理解するには時間がかかると思いました。

今までのプレゼンで注目していたのは、どの市場をプレゼンに採用しているか? でした。過去の大会でもそうでしたが、各プレゼンターが色々な意味で関心を持っている銘柄をプレゼンする訳ですから、プレゼンで被っている銘柄が多いほど、そのマーケットは注目度が高いと言えます。しかし、今回の大会では、大半が株式市場で、尚且つ、見通しではなく、バックテストやパフォーマンスの結果発表でした。それだけ株式市場が注目されているのか、それともシステムの検証に使いやすいのかは良くわかりませんでした。

多くのプレゼンの中で、印象的だったのはふたつあります。ひとつは Perry Kaufman 氏の “Loose pants fit everyone.” で、もうひとつは John Bollinger 氏の “Be open. Share with colleagues. You will get back far more than you give.” です。

Kaufman 氏のプレゼンは、システム・トレードを行うなら、流動性の高い市場で行い、売買ルー



気になった部分をデジカメで撮影するといった具合でした。会場は自分が思っていた以上に暗かったため、カメラの設定が上手く出来ず、日本人プレゼンターの写真を思ったように撮影出来なかったことは、今後の反省点になりました。

今年で6度目の参加になりますが、大会のコンセプトが毎回違っているためか、時代の流れなのかは判断が難しいのですが、過去参加したものと比べると中身が大分変わったなという印象を持ちました。

大会では、色々なテーマのプレゼンが行われます。大まかに、①テクニカル分析を用いた金融市場の見通し、②新しい相場分析手法の披露、③その他（システムトレード・リスク管理・時事ネタなど）、の3種類に分けることができますが、その年の大会テーマや金融市場の流行によって、そのウエイトは変わります。例えば、私が初めて参加した2012年シンガポール大会では、①②③がほぼ均等に割り当てられていました。しかし、今年のミラノ大会は③のウエイトが圧倒的に高い大会でした。ミラノ大会のテーマが “Sailing to the future” ということもあり、これまでの大会でよく見られた自社製品・オリジナルの理論に基づくシステム・トレードに関するプレゼンだけでなく、AI（人工知能）、ビットコインとブロックチェーン関連、行動経済学に関するプレゼンも見受けられました。

イタリアではビットコインやブロックチェーンがあまり広まっていないのか、「それらを使って何をやる」といよりも「ビットコインやブロックチェーンとは何か」という内容でしたが、中途半

1 ルも極力シンプルなもので、あれこれ条件を付け  
2 ない方が上手く機能するというものでした。言葉  
3 を換えると、良かれと思って色々条件を付けたが  
4 為に、かえってそれらのルールが足かせになっ  
5 て、機動的に売買できないシステムが構築されて  
6 しまうということだと思えます。これは、システ  
7 ム・トレードに限らず、業務にも通じる部分があ  
8 るなあと、昔、自己満足で作成したツールのこと  
9 を思い出し、それが悪い例だと気付かせてくれた  
10 プレゼンでした。

11 日本でも有名な Bollinger 氏はボリンジャーバ  
12 ンドで特許を取っていません。その理由は、でき  
13 る限り沢山のの人にボリンジャーバンドを使っても  
14 らって、自分とは違う発見をフィードバックして  
15 欲しいからだど、以前、聞いたことがあります。  
16 この考えは、自分も大きく共感できるもので、本  
17 音を言いますと、ジョン・ブルックス賞を頂けた  
18 「バケ足」についても、自分1人で検証をし続け  
19 るのに限界を感じていることにも由来します。発  
20 案者以外のテクニシャンが分析手法を再現し、新  
21 たな切り口を発見し、発展させることが出来る分  
22 析手法こそが、自分の求めるものなのです。そう  
23 いった思いを言葉にしてくれたのが、Bollinger 氏  
24 のプレゼンでした。



25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37 話は変わり、6度目の参加となると、顔なじみ  
38 の友達に加えて新しい友達に会える楽しみがあり  
39 ます。

40 今回参加を決意した Dan Valcu 氏とは大会初日  
41 の昼食時間に偶然出合い、名刺交換とバケ足を本  
42 に書いてくれたお礼を伝えることが出来ました。



10 Yoshinobu の発音は難しいから “Yoshi” って呼ん  
11 でと話したら、「Mr. BAKE—ASHI って呼んであげ  
12 る」と言われました。加えて「バケ足を理解する  
13 には時間がかかる。チャートの形を変えるという  
14 コンセプトが新鮮すぎるから。でも魅力的な手法  
15 だ」と褒めて頂いたことが大変嬉しかったです。  
16 興奮し過ぎて、一緒に写真をとることを忘れたこ  
17 とが悔やまれます。

18 イタリア協会の Francesco Caruso 氏、Luca  
19 Giusti 氏、Maurizio Mazziero 氏、Giovanni  
20 Trombetta 氏、Marco Mione 氏からも歓迎されま  
21 した。

22 特に Marco は期間中、日本人同士で話しをして  
23 いる輪の中に飛び込んできて、「Mr.Sakai はどこ？  
24 」と聞いてきて「僕だけど。」と答えると、満面  
25 の笑みで「FB フレンドの Sakai. ようこそ！」と  
26 話しかけてくれたのが印象的でした。しかし、以  
27 降は顔を合わせる度に “Oh! Mr.SAKAI!” と叫ばれ  
28 たので、とても恥ずかしかったです。



30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39 IFTA 会長の Mohamed El Saiid 氏、前会長の  
40 Rolf Wetzter 氏も顔を覚えていてくれ、嬉し  
41 かったです。2人とも 2013 年サンフランシスコ大会  
42 以降、年に 1 回しか会ってないですが、それでも、

1 声をかけてもらえる事に2人の人柄を垣間見ま  
2 した。

3 加えて、来年の大会のホストであるマレーシア  
4 協会のメンバーも、事あるごとに話しかけてもら  
5 えました。とにかく何でも興味があるらしいのと、  
6 熱心に来年の大会参加を勧誘している姿に、並々  
7 ならぬ熱意を感じました。

8 SNS経由で、テクニカル分析を教えてほしいと  
9 アプローチを受けていたので、日本から持って  
10 行った資料を使い、ミニ勉強会を実施した結果、  
11 Nik Isan氏からは大きな葉巻をHaji Zainal氏から  
12 「奥さんへ」と言ってお洒落な柄のパティックを  
13 お土産に頂きました。

14 また、自分の課長昇格を最初にお祝いしてくれ  
15 たAurélia Gerber氏とも記念写真がとれたのは、  
16 とても嬉しかったです。

17



28

30 また、ガラ・パーティー中に急に呼ばれ、  
31 「MFTAに合格できるコツを教えて欲しい」と懇願  
32 され、回答に困った思いをしたこともありました。

33

### 感想

35

36 IFTA大会に参加することは、半ば自分のライフ  
37 ワークかもしれないと思いながらも、毎回、参加  
38 を決意するまでに時間がかかってしまいます。仕  
39 事関係が毎回ネックとなりますが、周りのサポー  
40 トでなんとかこなっています。

41 しかし、帰国する飛行機の中では「来年も行き  
42 たいな」と思います、何故でしょうか？ 多分、世



12 界の参加者の一員として一緒に勉強している感が  
13 強いと、「日常生活では絶対に会えない方々」  
14 に会えるからでしょう。

15 時間に制約がある分、ミラノ観光はほとんどし  
16 ていません。しかし、道に迷いながら海外のある  
17 場所へ、ツアーではなく、自力で行くことが楽し  
18 いと思えるようになりました。

19 ミラノ大会は“Sailing to the future”がキャッチ  
20 フレーズでした。そのキャッチフレーズ通り、プ  
21 レゼンの中身はテクニカル分析そのものというよ  
22 りも、テクニカル分析や複雑な数式とコンピュー  
23 ターを使って如何にトレーディングするか or 管理  
24 するかといった内容でした。現在の自分の業務と  
25 直結しているかという全く直結していません。

26 高校以来、理系と英語から逃げていた自分に  
27 にとって難解な数式は、「興味はあるけど自分で使  
28 うことの出来ない」領域でしたので、テクニカル  
29 分析の大会で理解できる内容が決して多く無かつ  
30 たことに若干、取り残された感覚が残っています



1 し、敷居が少し上がったような気もしています。  
 2 ただ、全ての人がAIや複雑な数式を使って投  
 3 資判断を行う時代がくるかという、そうではな  
 4 いとも思っています。将来的には、高度なコン  
 5

#### 6 ●プロフィール

#### 7 酒井 慶喜 MFTA®

8 岐阜信用金庫 国際業務部 為替資  
 9 金課長。1994年富山大学経済学  
 10 部経済学科卒業、同年岐阜信用金  
 11 庫に入庫。1999年国際部（現国  
 12 際業務部）に配属。カスタマー・  
 13 ディーラーとして従事した後、現  
 14 在は外貨建て資産負債の総合管理  
 15 を行っている。インターバンク・  
 16 ディーラーとしてディーリング  
 17 を行う傍ら、営業担当者へのトレー  
 18 ニングや事務指導、外国為替勘定  
 19 システムの運営管理、外貨建て会  
 20 計処理、海外金融機関とのコルレ  
 21 ス事務、国際業務に関わる法令  
 22 対応、金融市場の分析レポートも  
 23 提供する。日本人  
 24 で初めてIFTAジョン・ブルックス  
 25 賞（最優秀論文賞）  
 26 を受賞し、2013年IFTAサンフラン  
 27 シスコ大会にてス  
 28 ピーチを行う。  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42



1 ピューター分析によるテクニカル分析と、紙と鉛  
 2 筆による伝統的なテクニカル分析という2極化に  
 3 なると思っています。

4 そういう意味でも、自分の目指すテクニカル分  
 5 析や、自分のあるべき姿を見つめ直す良い切っ掛  
 6 けとなったミラノ大会でした。

7 いつも感じますが、テクニカル分析を勉強して  
 8 いなかったら、又、NTAAやIFTAのメンバーと  
 9 出会えていなかったら、このような貴重な経験を  
 10 地方の一信用金庫職員が味わえることは決してな  
 11 かったと感じています。

12 IFTAミラノ大会に関連して、お世話になった  
 13 方々に改めてお礼を申し上げます。

14 来年は、マレーシア・クアラルンプールです。  
 15 1人でも多くのNTAAメンバーが参加されるよう  
 16 願っています。「参加するメリット」と「参加し  
 17 ないメリット」を比べれば、自ずと答えが出ると  
 18 思いますよ。  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42